

さわやかに まごころをこめて

さわやか信用金庫は、日本経済の基盤を成す
中小企業と地域の人々をとことん金融面で支えてまいります。
地域に密着した金融に徹し地域の皆さまと運命を共にしてまいります。
さわやかに まごころをこめて 常に良質な金融商品・サービスを
提供し続けてまいります。
さわやかに まごころをこめて お客様志向の経営に徹してまいります。



理事長
篠 啓友

ごあいさつ

日頃、皆さまには格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。本年も当金庫に対するご理解をより一層深めていただきたく、ディスクロージャー誌「SAWAYAKA SHINKIN REPORT 2021」を作成しました。ぜひ、ご一読くださいますようお願い申し上げます。

2020年度の国内経済は、新型コロナウイルス問題による度重なる緊急事態宣言発令等が景気下押し要因となり、国内GDPは戦後最悪の落ち込みとなりました。人の流れ、物の流れが止められ、地域経済も飲食・サービス業をはじめとし、かつてないほど多くの業種に影響が及びました。

このような状況の中、当金庫は、新型コロナウ

イルス対策を最優先課題とし、お客様の資金繰り支援と本業支援に注力してまいりました。1年間でお取り扱いさせていただいたコロナ対策融資の件数は1万2,000件を超え、本業支援では、オンライン物産展・商談会、助成金活用支援など様々なお手伝いをさせていただきました。

また、2017年度からスタートした「新三位一体改革（意識改革、新戦略の実施、仕組みの変革）」は最終年度となりました。コロナ禍の中ではありましたが、全体としては、ほぼ予定通りの施策を実施することができました。その結果、預金残高は1兆5,821億円、貸出金残高は9,267億円、収益面では、経常利益は32億円、当期純利益は23億円

となり、計画数値を達成することができました。

2021年度は、引き続き新型コロナウイルス問題での皆さま支援を最優先課題とし、DX、SDGs等への取り組み等も強化してまいります。そして、全役職員一丸となりコンプライアンス遵守に努め、一人ひとりのお客さまとの信頼関係を大切に、地域金融機関としての使命を果たせるよう全力を尽くしてまいります。

どうぞ、今後とも変わらぬご支援ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2021年7月

目次

ごあいさつ	1
基本理念・経営理念	3
役員・組織図	4
さわやか信用金庫の考え方	5
新三位一体改革	6
業績ハイライト	7
お客さま支援	9
地域とともに	19
総代会	23
店舗一覧	25

基本理念・経営理念

基本理念と経営理念は、さわやか信用金庫が目指すものを簡明に表現したもので、その実現には「効率性」「透明性」「スピード」をキーワードとしております。

基本理念は、対外的に、言わばお客さまに対して当金庫の経営姿勢、金融機関としてのあり方を明示したものです。

経営理念は、その基本理念を実現していくうえで、当金庫役職員がお客さまから絶大なる信頼を寄せていただけるよう、必須要件として取り組んでいかなければならない目標を掲げております。そして、その目標を達成し、地域のお客さまに選ばれ、地域になくてはならない金融機関となるために、当金庫は「新三位一体改革」に取り組んでおります。

- 基本理念**
- 1 日本経済の基盤を成す中小企業並びに地域の人々をとことん金融面で支える金融機関であること
 - 2 地域に密着し、地域と運命を共にする金融機関であること
 - 3 使い勝手のよい、良質な金融商品・サービスを提供し続ける金融機関であること

- 経営理念**
- 1 多様化するニーズに十分応え得る体力と、弾力性に富む強固な財務体質の構築
 - 2 役職員の能力向上と旺盛な勤務意欲の実現
 - 3 経営(組織と運営)の効率化と透明性の確立

当金庫の概要(2021年3月31日)

所在地	本部:東京都大田区萩中2丁目2番1号 本店:東京都港区三田5丁目21番5号	営業地区	東京都 23区、八王子市、立川市、武蔵野市、三鷹市、府中市、昭島市、調布市、町田市、小金井市、小平市、日野市、国分寺市、国立市、西東京市、狛江市、多摩市、稲城市
創立	1926年(大正15年)11月11日	神奈川県	横浜市:鶴見区、神奈川区、港北区、緑区、青葉区、都筑区 川崎市:全区 相模原市(旧津久井町、旧相模湖町、旧藤野町、旧城山町を除く)
出資金	143億円		
預金量	1兆5,821億円		
融資量	9,267億円		
店舗数	63店舗(うち8出張所)		
店外ATM	18カ所		
役職員数	1,029名		

役員・組織図

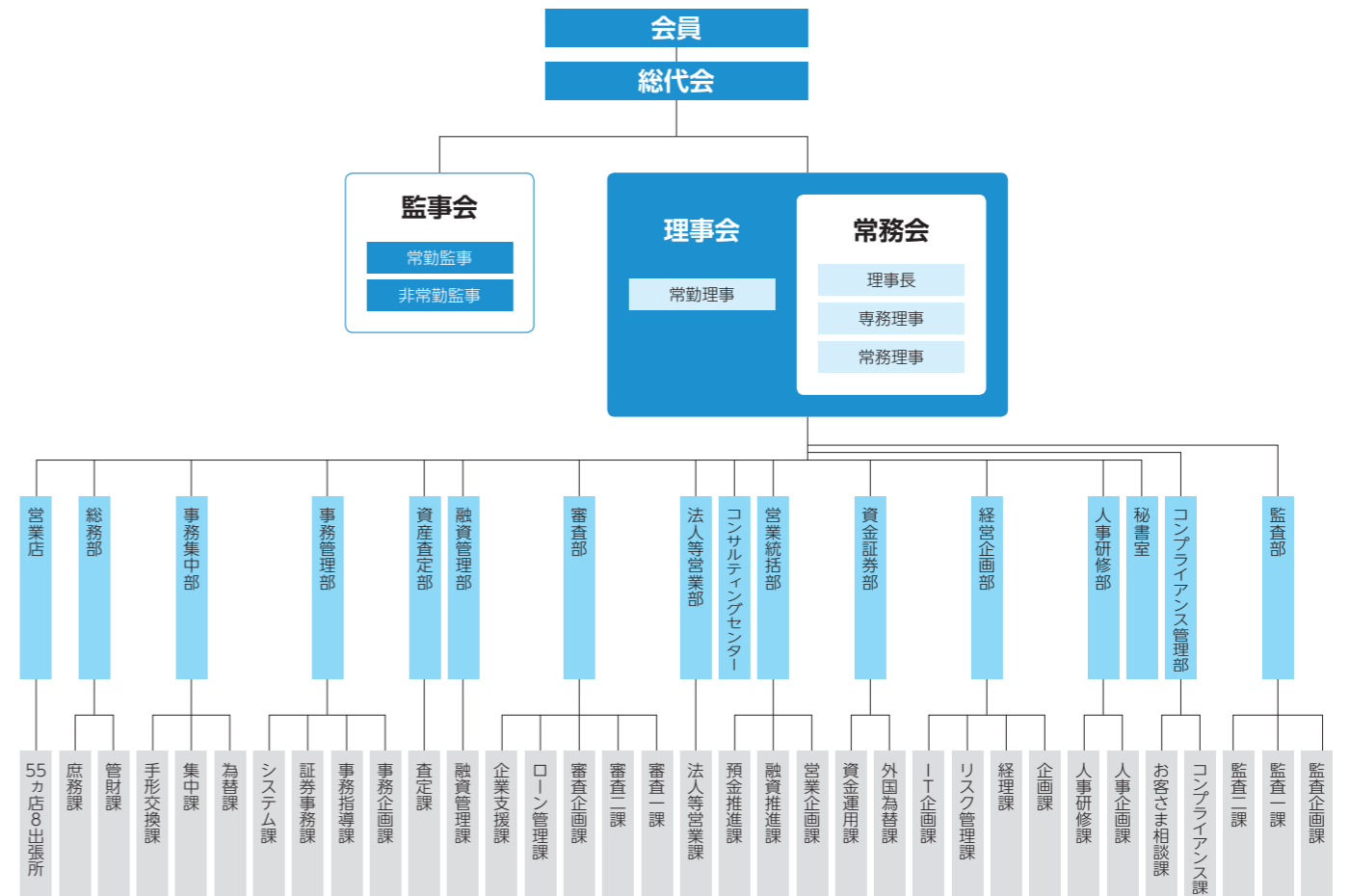
今後とも、さわやか信用金庫をよろしくお願いいたします。

役員一覧(2021年7月1日)

理事長(代表理事)	篠 啓友	常勤理事	岡野谷 敏弘
専務理事(代表理事)	石井 敬一郎	常勤理事	山口 剛志
常務理事	小宮山 勝	常勤理事	三澤 義幸
常務理事	其田 修一 ^{※1}	常勤監事	米山 一宏
常務理事	松宮 充伸	常勤監事	西村 健
常勤理事	杉山 年之	非常勤監事	廣田 哲治 ^{※2}
常勤理事	山崎 和義		

※1 常務理事 其田修一は、信用金庫業界の「総代会の機能向上策等に関する業界申し合わせ」に基づく職員外理事であります。
 ※2 非常勤監事 廣田哲治は、信用金庫法第32条第5項に定める員外監事であります。

組織図(2021年7月1日)



さわか信用金庫の考え方

基本理念および経営理念に基づき、お客さまが抱える課題を解決するために徹底的な伴走支援をしていくことを使命と考え、地域においてオンリーワンの金庫を目指していきます。この考え方を実現するために、当金庫では2021年度より「第七次さわか3ヵ年計画」に取り組んでおります。

取り巻く環境の変化

少子高齢化、人口減少

新型コロナウイルスの影響

SDGs・DXの進展



第六次さわか3ヵ年計画 新三位一体改革

～ファーストステージ～

意識改革

新戦略の実施

仕組みの変革

第七次さわか3ヵ年計画 新三位一体改革

～セカンドステージ～

意識改革

～使命の認識と
環境変化への即応～

新戦略の実施

～課題解決型営業地域No.1を指向～

仕組みの変革

～持続可能なビジネスモデルのステップアップ～

セカンドステージへ
ステップアップ

更なる飛躍



2020年度数値目標

融資期中平残	8,200億円以上
総資金利鞘	0.15%以上
コア業務純益	30億円以上
一人当たり預貸金平残	22億円以上
OHR(経費/業務粗利益)	80.00%以下
自己資本比率	8.00%以上

実績

8,872億円
0.16%
39億円
23億円
79.12%
8.16%

全項目
達成

2023年度数値目標

コア業務純益	50億円以上
OHR(経費/業務粗利益)	75.00%以下
総資金利鞘	0.20%以上
自己資本比率	9.00%以上

業績ハイライト

2021年3月期の預金量は前期より1,145億円増加し、融資量は1,045億円増加しました。

2021年3月期預金量

1兆5,821億円

都内23信用金庫中 第8位
全国254信用金庫中 第23位

2021年3月期融資量

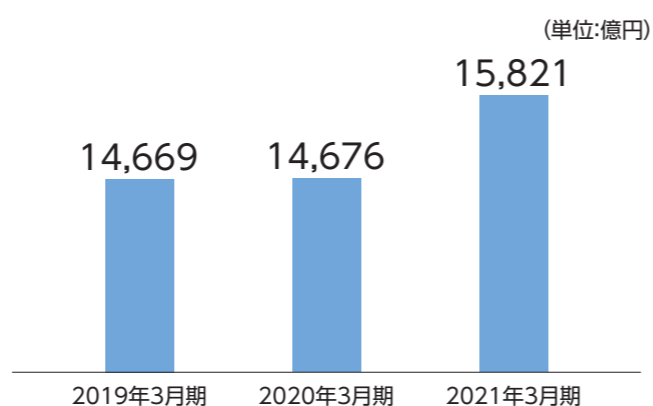
9,267億円

都内23信用金庫中 第8位
全国254信用金庫中 第22位

預金量

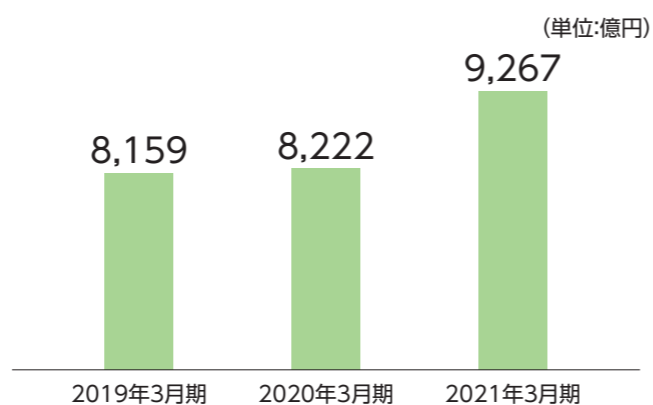
預金量は1兆5,821億円となり、前期比1,145億円の増加となりました。

事業先のお取引先に対しては、新型コロナウイルスの問題に対処し、お客さまの資金繰り支援融資に積極的に取り組んできました。さらに、持続化給付金等のコロナ関連の助成金もあり、預金残高が増加しました。個人のお取引先に対しては、ライフサイクルの各ステージに応じ、投資信託等の資産運用や相続、贈与相談等に努めております。



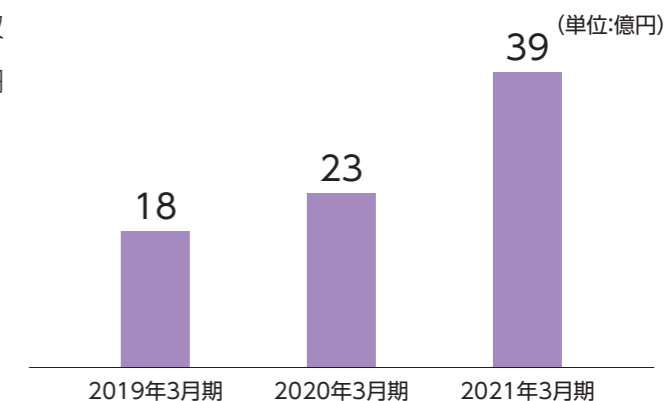
融資量

新型コロナウイルスの対策として、公的な緊急融資制度に加え、当金庫独自の「新型コロナウイルス対策資金制度」を中心に活用し、お取引先の資金繰りを支えてきた結果、貸出金の残高は9,267億円となり、前期比1,045億円の増加となりました。また、新たに3,750先の事業先とお取引が始まりました。



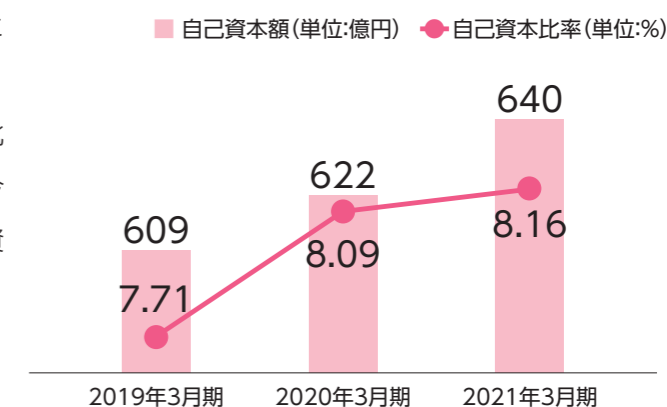
コア業務純益

貸出金利息の増加および経費削減の結果、本業の収益力を表すコア業務純益は、39億円と前期比15億円の増加となりました。



自己資本額・自己資本比率

分子である自己資本額は、内部留保の積み増し等により前期比18億円増加しました。また、分母であるリスクアセットは前期比で163億円増加し、自己資本比率は8.16%と前期比で0.07ポイント増加しました。今後も将来に備えて内部留保の積み増しを中心に自己資本比率の向上に努めてまいります。



不良債権額・不良債権比率

不良債権額は289億14百万円となり、前期比2億19百万円減少しました。不良債権比率についても3.09%と前期比0.41ポイント改善しました。今後とも、お取引先の経営改善支援に努め、不良債権比率の改善を図ってまいります。

